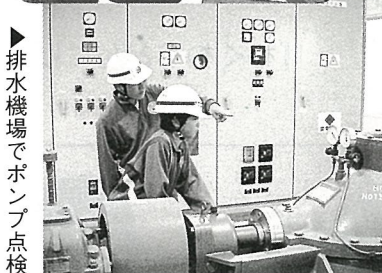




▲園児に絵本の読み聞かせ

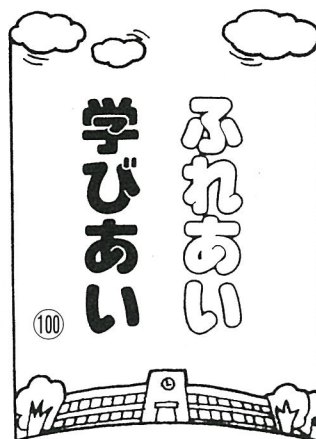


▶排水機場でポンプ点検

中学生が将来の夢や 進路に生かす職業体験

中学校では、平成12年度から千葉県教育委員会の指定を受け、2年生を対象に「生き活き体験・地域が先生」として職業体験を行っています。

今年度は、11月6日から8日までの3日間、自分たちが希望した商店・飲食店・建築関係、福祉施設等の約50箇所での体験をしました。受け入れた各事業者のみなさんは、慣れない環境の中でとまどう生徒を丁寧に指導し、仕事の大切さや素晴らしさを教えてくれました。この学習で、生徒達は普段の学校生活では得ることのできない貴重な体験ができました。



栗山川浄化啓発作品入選者

鈴木恵介君 最優秀賞(作文の部)受賞

栗山川汚染防止対策協議会では、栗山川沿岸市町村の小中学生から栗山川の汚染防止やごみの不法投棄に関する作文・標語・ポスターを募集し、その結果次の児童・生徒が入選しました。

作文の部	最優秀賞	鈴木 恵介(南条小6年)
ポスターの部	優良賞	鈴木 良徳(光中2年)
標語の部	優良賞	松岡 拓弥(白浜小5年)
		吉田 梓(白浜小4年)
		須合 眸美(光中3年)
		青柳 千花(日吉小6年)
		越川 藍(東陽小5年)
		川嶋万紀也(白浜小5年)

(敬称略)

最優秀賞 『川と生きる』

南条小6年 鈴木 恵介

現在、日本の川は、全体的におせんされている。そのため、水の中に住む生き物は、住む場所が少なくなり、数もへってきていると言われている。

なぜ、川はよごれてしまったのだろうか。まず、家庭廃水が原因だろう。大きじ一杯の油の量は十五ミリリットルで、この量の油を流して、よごした水をきれいにするには、約三千リットルの水が必要だといわれている。三千リットルというと、

光町の六年生がサケの稚魚を育てて、栗山川に放流していた。栗山川もゴミのポイ捨てや家庭廃水などで、緑色ににごっている。こんなによごれた川では、放流したサケも、もどって来る事ができないと思う。

それなら、ぼく達にできる事はないのだろうか。まず、ごみがたくさん出る台所から考えてみた。ふだん、何気なく食べているカップラーメンのスープをそのまま流すとどうだろうか。カップラーメンを食べるのは、一日に一人じゃないから、栗山川流域に住む人々を合わせると、一日でもとてもたくさんのカップラーメンのスープが捨てられていると思う。そうするとたちまち川や海はおせんされてしまう。これを防ぐのは、ぼく達には難しいかもしれないけれど、各家庭で浄化そうをつけてきれいにしてから流すようにすればよい。野菜の皮などの生ゴミのしまつは、捨てたりしないでくさらせる事で、草花の肥

料などにはできる。生ゴミを捨てないだけでも川や海のおせんは防ぐ事ができるだろう。そのように、少し考えてみるだけでも、たくさんアイディアがうかぶはずだ。

では、川に生きる生き物は、これからどうなっていくのだろうか。それは、絶滅の危機にさらされてしまう生き物が多くなってしまうだろう。実際、メダカやタガメなどの、身近にいるような生き物が、絶滅してしまうのだ。そう考えると、地球から生き物がいなくなってしまうかも心配してしまう。川や海などの水は、水生動物だけでなく、水を飲む人間にとっても、とても大切な物だ。水は大切に使い、きれいな川をつくらなくてはいけない。きれいな川をつくれれば、自然に、きれいな海もできるのだ。人間は、自分達の事はばかり考えてきたから今、川や海によごれについて考え、きれいな川にする努力が大切だと思う。

